



「なすべきことをなす」

理事長 村松 満

人の転機というのは、その時は気づかないけれど、後になってあの時が転機だったかと振り返って思うものかもしれません。

昨今、新聞、テレビなどの解説でこの言葉が氾濫しているように思いますが、といて、毎日のやるべきことがそれで大きく変わるわけではない。

以前読んだ本の中に「キャリアのドアにドアノブはなく、向こうから開かれる。開いたら、ためらわずそこに踏み込む」という言葉がありました。これは、「いるべき時に、いるべきところにいて、なすべきことをなす」という姿勢を説くもので、要は、自分が変化すること、つまり転機を迎えるというのは、自分から求めて取りに行くものではなく、目の前にその機会が現れてくるもの、そして、現れたらためらってはいけない、そこに踏み込むべきだという主張のようでした。

少しばかり人生の岐路を経てきた老輩の一人として、与えられた境遇のもとで、へこたれることなく前向きに仕事をしていれば、必ずや転機となるドアが目の前に開かれるという考え方は、まことにしっかりと胸に落ち、「我が意を得たり」と思ったものでした。

振り返れば、今日の自身の境遇につながるようになったのも、遙か昔日のこと、突然、全く未経験の児童福祉部門に異動になった先で、そう長くない期間であったにせよ、そこに溶け込み、実に楽しく、充実感ある仕事の経験ができたことがその種になったに違いありません。

今や、どこを向いても激変の世の中ですが、それであればこそ、慌てることなく逆にそうした環境の変化を味方につけ、目の前のなすべきことをなしていくことが大切なのではないか。そんな風に思います。

来年には法人設立 80 周年を迎えます。この間、多くの先人のご努力によって、法人の社会基盤が確立されました。厳しい環境の中、ご自身の使命を胸に刻み、なすべきことをなして来られたがゆえに、今日の法人の姿があるのだと思います。

後に続くものの一人として、我が先人への敬意と感謝の意を改めてこの機に深め、前に進みたいと考えています。



「転機」

こどものうち八栄寮 施設長 大村 正樹

「転機」とはある状態から他の状態に変わるきっかけや変わり目のことで、人生や仕事などの重要な変化を指す言葉だという。

この意味を再確認したとき、私は当初書こうと思ったことを変えることにした。

当初私は八栄寮の将来について書くつもりだった。現在進められている八栄寮の建て替えを含む敷地の活用や今後の事業展開、また、それを支える組織の仕組みの改革、そんなことに触れるつもりだった。それは「仕事上の重要な変化」だ。

しかし、「人生の重要な変化」を指す言葉として「転機」ととらえると、見えるものが変わった。

先日、5月5日こどもの日フェスティバルを開催した。コロナウイルスが世界中に蔓延し、縮小を余儀なくされて数年、まだ、地域の方に案内することは難しいが、せめて退寮した子ども達に対しては開催したいと考えた。

当日は100名程度の退所した子どもとその家族がやってきた。退所後の人生をそれなりに順調に歩んでいる子ども、悪戦苦闘をしながらも何とか生き抜いている子どもなど、さまざまな顔をして八栄寮にやってきた。

この子たちにとって人生の「転機」とは何なのだろうか。

さまざまな事情で親や親族と一緒に生活できなくなり、ほとんどの子どもが見知らぬ土地にあるこの八栄寮にやってきた。これこそ彼ら・彼女らにとって人生の「転機」だったのではないか？

「転機」という言葉は良い意味でも悪い意味でも使われるという。

子ども達にとって八栄寮で暮らすことになった「転機」はどちらの言葉になったのだろうか？退所した子ども達の近況を聞きながら、そんなことを思った。そして、微力ながら、子ども達にとって「よい転機」となるような関わりを私はしたい。



未来への転機

こどものうち八栄寮 主任 大石 佳奈

私が学生の時、実習先の職員の方が“児童の入所施設はその子の人生にとってほんの一部、ほんの数年。でも一番大事な時期のほんの一部だったりするのよ”とサラリと仰った一言が心に突き刺さりその言葉や衝撃が現在もふいに脳裏によぎることがあります。果たして八栄寮で生活していた子は将来、長い人生を振り返った時に八栄での生活、あの場面、あの時のことを転機と捉える子が何人いるのでしょうか。最大限に良い意味の“転機”になるよう私たち職員は何を大切にしながら支援をしていくべきかと考えています。近年の働き方改革や職員集団、各支援機関との連携の在り方、子どもの様々な要望等を耳にするたびにとても悩み、答えが簡単には出ませんが、一人一人の人生の大事な一部、八栄寮を築きあげて下さった先輩方の想いも合せ今ある環境、体制で子どもにとっても職員にとっても八栄寮に居ること、居たことが転機となるようみんなで未来を描いていけたらいいなと思います。



「いちねんせい」

こどものうち八栄寮 保育士 鈴木 奈津実

「ただいま～！！今日ね、学校探検したんだよ！！明日は朝顔の種を植えるの～！！」と、小学校に入学した M ちゃん。ピカピカのランドセルに黄色い帽子で新しい発見にわくわくの毎日を送っています。

今年の春も門出と進入学を迎え新たな1年がスタートしました。あまえんぼうだった R くん・M くんは高校を卒業し一人暮らしを始め、社会人として研修に励んでいるようです。昨年度、受験生だった7人は、自分と向き合い葛藤し、職員と話し合いを重ね、それぞれの進む高校を選択し、4月からそれぞれの新しい制服に袖を通しました。

小学校1年生、中学校1年生、高校1年生、社会人1年生、八栄寮1年生……。子どもたちも職員も色々な「いちねんせい(転機)」を迎えて成長していつているんだなあ実感しています。ドキドキわくわく、それぞれの「いちねんせい」が良い時間となるよう今年も1年元気いっぱいにご過ごしたいと思います。





転換期

こどものうち八栄寮 児童指導員 宮崎 美公

私がショートステイの担当になって4年が経ちます。ショートステイ事業が始まった当初は冠婚葬祭や仕事等を理由とした利用が主だったそうですが、もちろん現在もそういった理由の方もいますが、近年はリフレッシュ利用が大半を占めています。「リフレッシュ」の中にも色々な背景や課題を抱えているご家庭があり、子ども家庭センターの担当が付いているケースも一定数います。ショートステイのおかげで何とかやれているとのお言葉を下さる親御さんもいらっしゃいます。リフレッシュ利用の増加には、核家族化やひとり親家庭、不登校児等々、時代と共に変化する社会的背景も影響していると感じます。そのような中で児童養護施設が担うべきショートステイも転換期を迎えているのかもしれませんが、八王子市とも色々な話をしていますが、理想的な形を整えるのは簡単ではありません。現状は限られた力の中で、児童養護施設だからこそ還元できる地域支援の1つとして家庭の力となれるように今出来る事を精一杯やりたいと思っています。



受け取る千カラ

こどものうち八栄寮 児童指導員 佐藤 吉寿

八栄寮に入職して3年目になります。2年目に山の家からショートステイへ、そして今年度はオリーブみらいでも学ばせてもらっています。生活施設・宿泊型一時預かり・無料学習塾、いずれもが私には得難い経験であり、貴重な機会を頂いたものと思っています。

先日、オリーブみらいで私にとっての転機になるかも知れない、塾生 M さんとの出会いがありました。夢に向かい、学習の遅れを取り戻すための課題に取り組む生徒さんで、私の中に決して小さくはない、気持ちの変化が起きたのを感じました。日々の暮らしの中、些細なことに感動し、こころ動かされる自分を発見するのは、馬齢を重ね、ここ数年めっきりポンコツになったこんな自分でも、まだいけるかもと自信が持てる瞬間です。

毎日は、きっと心の持ち方ひとつで様々な気づきに溢れ、それらは時に思いがけない転機にすらつながるのかも知れません。日々、小さなことにくよくよしながらも、いつかそんなことを子どもたちに伝えられたら良いなと思います。



「リフレここのえのターニングポイント」

リフレここのえ 施設長 横井 義広

私がこどものうち八栄寮の職員からリフレここのえの施設長になって 13 年経ちました。この間、母子生活支援施設のありかたについて、他の施設長や東京の母子福祉部会や全国母子生活支援施設協議会（以下、全母協）の活動の中で一つ一つ学んできました。また、国の施策や児童福祉法の改正等、利用者ニーズの変化等にどのように対応していくか、職員と話し合いながら進めてきました。その中で母子生活支援施設のひとつの方向性は、「高機能化・多機能化」であるということがわかりました。高機能化とは、従来の入所支援をより充実させ、専門的にすること、多機能化とは、広く地域の子育て世帯に対しての支援機能を持つことです。具体的には、令和 3 年に全母協で、「①産前・産後支援、②アフターケアを含む地域支援、③親子関係再構築支援」の 3 点を事業運営の中核的目標として提示しました。

リフレここのえでは、高機能化・多機能化をここ 10 年進めてきました。平成 27 年は、「無料塾オリーブ八王子」の開講、平成 31 年は、「産前・産後母子支援」の開始（Sun・Sun・Smile プログラム）、令和 4 年には「自立支援担当職員」の配置によるアフターケア・地域支援の強化、そして令和 6 年 10 月からは「東京都妊産婦等生活援助事業」の交付を受けて本格的に妊産婦支援を開始しました。また同年東京都女性相談支援センターとも緊急一時保護の契約を行いました。

母子生活支援施設が高機能化・多機能化する理由は、入所世帯の低下があります。年間で 90%（常時 18 世帯を下回らない水準）の入所率がないと、暫定定員ということになり、数千万の返還金が生じてしまい、雇用が維持できなくなります。施設の存立にもかかわってきます。施設が地域の中で本当に必要とされるためには、入所世帯の支援と併せて、施設が建っている自治体やそこに住んでいる子育て世帯への支援の拠点とならなければ、この先は無いと考えています。

リフレここのえが、今後も必要とされる機関となるべく、今は転機（ターニングポイント）に立たされていると考えています。

下の図では、全母協が進むべき施設の形態を示しています。リフレここのえは、たぶん図のまんなかくらいには来ていると考えています。これからも応援をよろしく願います。



【各施設 在籍者数】（令和 7 年 4 月末現在）

こどものうち八栄寮	リフレここのえ	八王子市子ども家庭サービス事業利用者数
幼児 7 名 小学生 13 名	乳幼児 15 名	令和 6 年 12 月～令和 7 年 4 月末
中学生 11 名 高校生他 14 名	小学生 10 名	ショートステイ 360 名
【計 45 名】	中高生 3 名	トワイライトステイ 137 名
	【計 16 世帯 44 名】	合計 497 名

転機

リフレここのえ 母子支援員 流石 理沙

昨年度から“にんしんサポート Frill”という妊産婦等生活援助事業が始まりました。本事業では、支援が必要な出産前後の妊産婦さんに寄り添い、生活のサポートや相談支援を行います。“出産”は女性にとって身体的・精神的・社会的に大きな変化を伴う“転機”だと考えます。妊産婦さんの支援はとてもやりがいのある仕事ですが、命に関わる仕事である為、プレッシャーの重さ、様々な困難さ、葛藤も同時にあります。これまでも妊産婦さんを支援し、幸せな感情、悲しい感情、複雑な思い、様々な価値観があること、出産には沢山のストーリーがあることを経験し、多くの学びを得ました。産まれたての赤ちゃんを抱っこさせてもらった瞬間の感動は忘れられません。利用者さんから「ここにきて良かった、安心して生活できています」と笑顔で話してもらえた時には、喜びの感情が沸き上がります。このように支援する側も大きな充実感や達成感を持てること、自己成長にも繋がる貴重な仕事をさせてもらっていると実感します。

これからも出会う利用者さんに寄り添い続け、出産という人生における“転機”に携われるこの仕事に誇りと責任を持ち、日々精進したいと思います。



にんしんサポート Frill とは？

リフレここのえが、令和 6 年 10 月から開始している「東京都妊産婦等生活援助事業」の事業名です。妊娠葛藤相談や子どもの養育相談、自立に向けた相談支援、利用者の状態に応じた支援計画の策定、入居または通いによる居場所や食事の提供等の生活支援を行なっています。

Frill という名前には、一枚の布にひだを寄せて作るフリルのように、集まって寄り合うことで新しい形を作り出すことを目指していく、という意味がこめられています。



私の転機

リフレここのえ 母子支援員 小幡 美智子

私には大きい転機が二度ありました。最初の転機は14年間勤めた職場を退職し、社会福祉士の資格取得のために専門学校へ通う決断をしたことです。安定した職を手放すことに不安はありましたが「誰かの力になりたい」という思いが私を前へと動かしました。それまでの人生で最も大きな決断であり、私にとって大きな転機となりました。二度目の転機は、リフレでの母子支援の経験です。新生児の沐浴や産後のお母さんへの食事支援などを通じて、自分の中で漠然としていた母子支援の在り方に対し、どう関わっていくべきかの方向性がみえてきました。この2つの転機で得た経験と決断が今の私を作っています。これからも悩んだ時には、その時の気持ちを思い出し、前に進んでいきたいと思います。



自分にとっての転機

リフレここのえ 少年指導員 三橋 萌海

私の転機についてお話しします。リフレに入所中、毎日、夕方から居室に行き、歯磨きやお風呂に入ったかの確認をし、朝間に合う時間に学校に行けるよう支援した兄妹がいました。毎日、同じようなことで叱り、何度も繰り返し話をし、心が折れそうなこともありましたが、それでもあきらめず声を掛け続け、できた時は沢山褒めました。退所する日、担当職員と母に促されながらでしたが、二人とも笑顔で「ありがとう」と言ってくれました。その言葉がとても嬉しかったです。私にとってその言葉が転機でした。退所が近かったため、毎日叱ることが多く、できるようになってほしいという気持ちでいっぱいだったのですが、子どもにどう伝えるかが大切なのだと学びました。子どもとの毎日の生活のなかで、丁寧に関わり、温かい気持ちで関係性を作っていけるよう頑張りたいと改めて思いました。



資金収支決算書 令和6年度

社会福祉法人 同胞援護婦人連盟
単位:千円

勘定科目		本部	こどものうち 八栄寮	リフレ ここのえ	子ども家庭 サービス	子育て応援	内部取引	合計	
事業活動による収支	収入	児童福祉事業収入	0	468,801	153,751	17,469	6,911	646,933	
		経常経費寄附金収入	2,306	1,354	24	0	20	3,704	
		受取利息配当金収入	28	64	35	3	1	130	
		その他の収入	1,631	8,497	95	0	0	10,224	
	支出	人件費支出	3,976	314,096	96,896	15,044	7,043	437,056	
		事業費支出	0	71,270	8,555	1,030	1,480	82,335	
		事務費支出	8,196	31,751	17,188	1,121	3,337	61,593	
その他の支出		0	3,089	0	0	0	3,089		
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入		750	4,229		0	4,979	
		その他の施設整備等による収入					0	0	
	支出	固定資産取得支出	0	6,861	4,775	0	163	11,798	
		ファイナンス・リース債務の返済支出	0	0	143	0	0	143	
		その他の施設整備等による支出	0	143	0	0	0	143	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	0	2,765	886	0	0	3,651	
		事業区分間繰入金収入					5,963	- 5,963	0
		拠点区分間繰入金収入	12,000	0	0	0	0	- 12,000	0
	支出	積立資産支出	0	21,526	19,006	0	0	40,532	
		事業区分間繰入金支出	0	2,521	2,521	0	0	- 5,963	0
		拠点区分間繰入金支出	0	6,000	6,000	0	0	- 12,000	0
当期資金収支差額合計		2,872	24,974	3,935	277	873		32,932	
前期末支払資金残高		196,010	115,528	39,246	2,131	0		352,914	
当期末支払資金残高		198,882	140,502	43,181	2,408	873		385,846	

※千円未満を四捨五入しているため合計数が合わない場合があります

～ご寄付のお願い～

- 郵便振替 : 社会福祉法人同胞援護婦人連盟 00110-1-499359
- ゆうちょ銀行 : 社会福祉法人同胞援護婦人連盟 019店 当座 0499359

- ・折り返し当法人からの領収書をお送りします。
- ・社会福祉法人に対するご寄附は確定申告で所得控除の対象になります。
- ・住民税控除についてはお住まいの区市町村へお問い合わせください。

 <p>社会福祉法人 同胞援護婦人連盟</p> <p>児童養護施設 こどものうち八栄寮 母子生活支援施設 リフレここのえ 八王子市 子ども家庭サービス事業 〒193-0944 東京都八王子市館町 2232-1 Tel:042-661-5891 Fax:042-667-0006 http://www.doenfujin.jp</p>	<h3>編集後記</h3> <p>今回のテーマは「転機」です。梅雨ということもあり、気象という意味の「天気」とかけました。子どもは日々成長していきますが、私たちの関わっている子どもは、多くの転機を経験してきていることが多いです。子どもの人生がよりよいものとなるよう、「いい転機」になるように、毎日一生懸命関わっています。「〇えん」を通して、そのような日々の様子を感じていただければ幸いです。</p> <p>【広報誌担当 垣内桃子】</p>
--	---

ご意見・ご感想・ご質問を法人宛のお手紙または FAX でぜひお寄せ下さい。お待ちしております。

さかえ会・会費を送って下さった方々
 ありがとうございます



令和6年4月1日～令和7年3月31日

※敬称略

浅山 明美	カメヤマ タツヤ	新田 雄一郎
阿部 智英子	唐木 誠	原田 満里子
安藤 隆	川合 貞子	藤原 安都子
飯沢 由里香	北原 幸子	細田 淳子
石井 保	栗原 教子	牧野 晴信・万里子
石塚 正勝	小坂 順一	正木 説子
市川 一臣	小林 恵子	松野 哲夫
上村 信子	小谷田 恵美子	松村 一郎
遠藤 正明	小谷 雅則	三上 眞喜子
大川 宏明	篠宮 洋子	峰田 健・正子
大須賀 裕子	鈴木 ひと美	三宅 壮三
大塚 芳男	須之内 玲子	村松 幸美
岡 美佐子	瀬川 陽子	山科 満
小川 清美	関口 眞治	山田 美幸
長田 良	瀧田 富久美	山田 一眞
小佐野 志保	田中 憲治	四関 榮子
加古 明子	但野 潤	横山 柁夫
梶原 裕子	土居 正昭	吉田 正剛
加藤 富美	永野 清一郎	渡辺 ちか子
神山 治之	新田 誠吾	匿名 1名

植田理容院

セントベル幼稚園

東洋技研株式会社 代表取締役 山本 勝

成光運輸株式会社 代表取締役 飯沢 宗光

令和6年度さかえ会決算報告書

令和6年4月1日～令和7年3月31日

収入の部		支出の部	
前年度より繰越	24,312	寄附金(同胞援護婦人連盟へ)	1,860,000
会員より会費、寄附金	1,918,000	進学・就職お祝い金	40,000
利息	0	手数料	12,523
合計	1,942,312	合計	1,912,523
次年度へ繰越			29,789

令和6年度 御寄附者名



令和6年4月1日～令和7年3月31日

※敬称略

阿部 民代	鎌田 しず江・大介	瑞慶山 雅信	橋本 洋子
相原 佳子	鹿島 尚武	園川 勝美	橋本 利行
一ノ瀬 喜永子	黒井 秋生 さち子	田野倉 誠	日向 淳弘
伊藤 裕子	齋藤 智子	田野倉 喜久枝	平戸 ルリ子
伊藤 久江	酒井 百合子	高井 祐昌	福田 秀之
池田 鋼一郎	佐藤 圭	田野倉 希香	増田 久昌
伊藤 明夫	佐々木 みどり	竹藪 岳志	松田 美輝夫
梅木 友美子	坂本 千秋	田中 信夫	松本 直子
打矢 正雄	清水 薫	塚原 誠	峰尾 美香
浮須 秀夫	清水 啓成	内藤 彰信	山元 順子
遠藤 正明	島本 一男	錦戸 章	湯澤 久一
大窪 瞳	砂山 章	野宮 雄二	吉野 妙子
大平 豊昭	須崎 紀江	橋本 良枝	吉村 弘子

アサヒ飲料株式会社 首都圏営業企画部

池田工務店

いなば食品株式会社

イトヨーカドー労働組合 八王子支部

一般社団法人 日本レコード協会 企画・広報部 石見

一般社団法人 ハートリボン協会

一般社団法人 東京馬主協会

植田理容院

オーエム通商株式会社

株式会社 CDG

株式会社 そごう・西武 東京都遊技業協同組合 事務代行 田中

株式会社 ティーオー

株式会社 FRAGRANCY

株式会社 フレーベル館 コンテンツ事業部 出版マーケティング部CSチーム

株式会社 メリーチョコレートカムパニー

株式会社 ヤマフジ

コストコホールセールジャパン多摩境倉庫

サンエックス株式会社

全国シャンメリー協同組合

セカンドハーベスト・ジャパン

セブンイレブン館町店 黒沢 栄

多摩管友会

第一生命労働組合 八王子支部

チュチュアンナ

八王子いちようライオンズクラブ 萩原 和典

東京八王子いちようライオンズクラブ

東洋シャーリング工業株式会社

東京電力労働組合 多摩総支部

特定非営利活動法人 やすらぎ

特定非営利活動法人 ライツオン・チルドレン 立神 由美子

24時間テレビチャリティー委員会

日本鏡餅組合 理事長 樋口 元剛

KNOCK DESIGN 橋本 文

野田記念法律事務所

八王子市社会福祉協議会

はちまるサポート館

東日本総合保険事務所

フローリストファミリア

フラワーキャンドル

ブーランジェリーパリール

HottoMotto

毎日新聞東京社会事業団

めじろ台タウン自治会 北大路 俊信

モスバーガー高尾南口店 内田 洋子

山崎産業株式会社 第二東京営業所

有限会社 ユークリッドエージェンシー

ライオンズクラブ14RIZ

匿名 1名

以上の方々より寄附金、寄附物品を賜りました。ありがとうございました。